

BEST AVAILABLE COPY

## **SELF-ADHESIVE PAPER**

**Patent number:** JP55129475  
**Publication date:** 1980-10-07  
**Inventor:** HARADA KATSUMI; others  
**Applicant:** FUJI XEROX CO LTD; others  
**Classification:**  
- **international:** C09J7/02  
- **European:**  
**Application number:** JP19790036849 19790330  
**Priority number(s):**

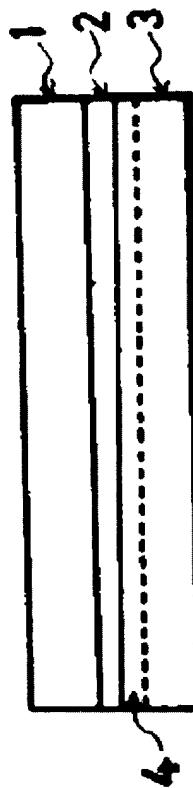
## Abstract of JP55129475

**PURPOSE:** To prepare a low-cost self-adhesive paper having excellent copying characteristics, by laminating a covering paper having an adhesive layer and a releasing paper opposing the adhesive paper to the releasing face of the releasing paper, wherein said covering paper and/or said releasing paper are single-glazed sheets and said adhesive layer or the releasing treatment is applied to the glazed face.

**CONSTITUTION:** A self-adhesive paper composed of a covering paper having a pressure-sensitive adhesive layer 2 (the pressure sensitive adhesive is, e.g. a water-based natural rubber latex) and a releasing paper 3 laminated to the covering paper 1 facing the releasing face (e.g. coated with a silicone resin) to the adhesive layer 2, wherein at least one of the substrates of said covering paper and said releasing paper is made of a single-glazed paper (e.g. white rolled paper, S-rolled paper, etc.) manufactured by a paper-making machine having a Yankee drier, and the adhesive layer of the releasing layer is applied to the glazed surface of the single-glazed paper.

**EFFECT:** The self-adhesive paper can be stably transferred in a copying machine without curling, even under a high or low humidity atmosphere.

USE: Electrostatic copying, magnetic copying, etc.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑮ 特許出願公開

⑰ 公開特許公報 (A)

昭55-129475

⑯ Int. Cl.<sup>3</sup>  
C 09 J 7/02  
// G 03 G 7/00  
19/00

識別記号  
101

府内整理番号  
6958-4 J  
6906-2 H  
6715-2 H

⑯ 公開 昭和55年(1980)10月7日  
発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑰ 粘着紙

⑰ 特 願 昭54-36849

⑰ 発明者 松井明照

⑰ 出 願 昭54(1979)3月30日

東京都中央区日本橋三丁目3番

9号株式会社倉本産業内

⑰ 発明者 原田勝巳

東京都中央区日本橋三丁目3番

海老名市本郷2274番地富士ゼロ  
ツクス株式会社海老名工場内

9号株式会社倉本産業内

⑰ 発明者 大橋耐二

⑰ 出願人 富士ゼロックス株式会社

海老名市本郷2274番地富士ゼロ  
ツクス株式会社海老名工場内

東京都港区赤坂三丁目3番5号

⑰ 発明者 前島信夫

⑰ 出願人 株式会社倉本産業  
東京都中央区日本橋三丁目3番  
9号

⑰ 代理人 弁理士 佐々木清隆 外2名

明細書

1. [発明の名称]

粘着紙

2. [特許請求の範囲]

粘着層を有する上紙と離型面を有する剝離紙が、  
粘着層と離型面とを接して横層された構造を持つ  
粘着紙において、該上紙及び該剝離紙の基材のうち  
少なくとも一方に、片側用紙を使用し、該片側用紙の離付面に粘着層又は離型面を形成したことを  
特徴とする粘着紙。

3. [発明の詳細な説明]

本発明は、静電複写、磁気複写等及び一般事務用等に於いて使用される粘着紙に関するものである。

第1図に示すような上紙、感圧性粘着剤層および離型面を有する剝離紙からなる粘着紙には、從来

(1) 上紙に上質紙を用い、剝離紙基材にグラシン紙を用いたもの。

(2) 上紙および剝離紙基材とともに上質紙を用いた

もの。

等がある。

しかし、前者は例えば静電複写機にかけたときの複写適性等に複写機内で送行性の点で、また後者はアンカーコート量、シリコーン量が増加するためコストの点で問題があり何れも実用的でなかつた。

本発明の目的は静電複写、磁気複写等に対する複写適性に優れた低コストの粘着紙を提供することである。

更に詳しく述べば本発明の目的は複写適性特に走行適性があり粘着紙として上面離型面共に適度の表面粗さを有し、且つ上紙と剝離紙との間の物理特性に差がないか又は差が小さく、高湿度環境下で使用又は保管した場合でも両者の紙の伸び率の差が粘着紙のカール現象を生じない程度に小さく、そして低湿度環境下で使用又は保管した場合でも両者の紙の収縮率の差が粘着紙のカール現象を生じない程度に小さいものを作成することである。

更に本発明の目的は低コストの粘着紙として粘

(1)

(2)

# BEST AVAILABLE COPY

着剤の塗工又は剝離紙基材への離型剤の塗布が均一であり、かつその塗布量が少量であるものを提供することである。

上記の目的を達成しこれらの諸特性を有する本発明の粘着紙は、上紙および剝離紙基材のうち少なくとも一方に、ヤンキー式ドライヤーを有する砂紙機により抄紙された片側用紙を用い、該片側用紙の貼付面に感圧性粘着剤層又は離型面を形成することによつて得られる。

本発明において片側用紙を抄紙するヤンキー抄紙機とは、乾燥部に1本の大径ドライヤーを持つ抄紙機で、裏紙面はヤンキードライヤー面にプレンシヤーロールで押しつけられて、強い片面光沢の得られるものである。

本発明に使用される片側用紙は、純白ロール紙（晒クラフトパルプを主としたロール紙）、Sロール紙（未晒又は半晒の化学パルプを主としたロール紙）、Gロール紙（化学パルプ30%以上、残余は碎木パルプを混入したロール紙）、片側晒クラフト紙、純白包装紙等ヤンキー抄紙機（長瀬、

(3)

特開昭55-129475(2)  
短網、円網の各式）で抄紙されたものであればよい。ヤンキー式ドライヤーをもつて抄紙された片側用紙は比較難でカールしにくい特徴がある。

本発明で使用する感圧性粘着剤は、一般に使用されているものでよく、水性型の天然ゴムラテックス、合成ゴムラテックス、アクリル樹脂エマルジョン；溶剤型の天然ゴム、合成ゴム、ポリイソブチレン、ポリビニルアルキルエーテル、アクリルエステル共重合物等が使用できる。

剝離紙に使用する離型剤は一般に使用されているものでよく例えばシリコーン系樹脂等が使用できる。

本発明において、剝離紙基材に上記片側用紙を使用した粘着紙及び上紙と剝離紙基材の両方に上記片側用紙を使用した粘着紙は特に優れており、次のような利点を有する。

高湿度下で剝離紙が上紙より大きな伸びを示し、上紙側に大きくカールし、低湿度で剝離紙が上紙より大きな収縮を示し、剝離紙側に大きくカールするという、グラシン剝離紙を用いた従来粘着紙

(4)

の欠点を有さない。そのため使用時又は保管環境の悪い状況、つまり高湿度若しくは低湿度下にかけた複写機においても本発明の粘着紙は走行性が安定している。

少なくとも剝離紙基材に上記片側用紙を使用した本発明の粘着紙は上紙、剝離紙基材ともに実質的に同材料及び同材質になるために環境変化に対するカール変動が小さくなる。又、剝離紙基材に片側用紙を用い、その片側用紙の貼付面にシリコーン系樹脂を塗工するため、僅く少量のアンカーコート処理することにより、シリコーン系樹脂の裏面浸透は防げ、製造コストも安価である。更に従来の粘着紙にあるようなグラシン紙を剝離紙基材としたものと違い、剝離紙基材の裏面が一般上質紙と同程度またはそれより低い平滑性を有しているため複写機に使用する際、始紙時の滑りがなく安定した走行適性を持たせることができる。

粘着紙の上紙に上記片側用紙を使用した場合には、感圧性粘着層の均一塗布が容易になり、塗布量が低下しつつ塗布膜厚の制御がし易く、粘着紙

(5)

全体の厚さも均一化出来る。

以下に本発明の実施例を示す。

## 実施例 1

上紙には純白ロール紙“王子製紙製OK純白”坪量4.5g/m<sup>2</sup>を使用し、剝離紙には上紙と同様にOK純白坪量4.5g/m<sup>2</sup>の貼付面を持つものを用い、この貼付面に耐候性試験用剤をアンカーコーティングし、この上にシリコーン系樹脂（信越シリコーン（株）、KS-705F）を塗工し、粘着剤としてはアクリル系感圧性粘着剤（大日本インキ（株）、DIGプラストPSX-102-D）を使用し、剝離紙に粘着剤を乾燥後2.0g/m<sup>2</sup>になるように塗工して上紙と貼合せて粘着紙を得た。こうして得た粘着紙の環境変化に対するカール変動は小さく、静電複写機でコピーテストを実施した結果、走行性が良好であつた。その結果を表-1に示す。

## 実施例 2

上紙には上質紙王子製紙製“サンフラワー”坪量5.23g/m<sup>2</sup>を使用し、剝離紙には片側晒

(6)

ラフト紙丸住製紙製“スター・パックA”坪量4.0 g/m<sup>2</sup>を用い、その離付面に耐溶媒性賦与剤をアンカーコーティングし、その上に実施例1と同様にしてシリコーン系樹脂を塗工し、粘着剤としてアクリル系感圧性粘着剤を使用して粘着紙を得た。こうして得た粘着紙の環境変化に対するカール変動はかなり小さく、静電複写機でコピーテストを実施した結果、走行性が良好であつた。

その結果を表-1に示す。

#### 比較例 1

上紙には上質紙山陽国産パルプ製“銀葉”坪量5.23 g/m<sup>2</sup>を使用し、剥離紙にはグラシン紙十条製紙製“グラシン厚口”坪量6.4 g/m<sup>2</sup>を用い、これに耐溶媒性賦与剤をアンカーコーティングし、その上に実施例1と同様にしてシリコーン系樹脂を塗工し、粘着剤としてアクリル系感圧性粘着剤を使用して粘着紙を得た。こうして得た粘着紙を静電複写機でコピーテストした結果を表-1に示す。

#### 比較例 2

(7)

表-1の結果からわかるように、本発明による粘着紙（実施例1および2）が静電複写機におけるカール性、定着性、走行性において、また保管時のカール性において従来のもの（比較例1および2）よりもはるかに優れていることが明らかである。

#### 4. [図面の簡単な説明]

第1図は粘着紙の構造を示す断面図である。

図中符号：1…上紙、2…感圧性粘着剤層、

3…剥離紙、4…離型層。

特開昭55-129475(3)

上紙および剥離紙基材にフォーム用紙（日本パルプ製）坪量5.23 g/m<sup>2</sup>を使用し、剥離紙基材に耐溶媒性賦与剤をアンカーコーティングし、その上に実施例1と同様にしてシリコーン系樹脂を塗工し、粘着剤としてはSBR系感圧性粘着剤を使用して粘着紙を得た。

こうして得た粘着紙を静電複写機でコピーテストした結果を表-1に示す。

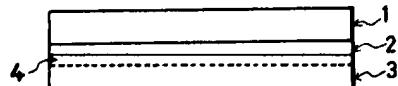
表-1

実施例	20°C 65%RHの 環境テスト		20°C 85%RHの 環境テスト		走行性
	カール性	定着性	カール性	定着性	
1	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○
比較例1	×	○	×	△	×
比較例2	△	○	△	○	△

注1：表中に示す記号は以下の通りの意味を表わす。  
○良好、△若干劣る、×不良

注2：比較例は現在市販されている粘着紙と同等の例。

(8)



第 1 図

代 理 人 弁理士 (8107) 佐々木 清 隆

（ほか2名）

(9)